

『震災・脱原発を考える』

3月11日に起きた震災は、大きな物的人的被害と衝撃を社会に与えました。東京電力福島第一原子力発電所の事故が発生し、放射能汚染をはじめとする深刻な危機状況は現在も続いています。事故がこれ以上悪化したとしても、沈黙化したとしても、「生き方」や「暮らし方」、「人間」「社会」「文明」というものを考えざるをえなくなる、そういう歴史的岐路に現在私たちはいます。

この出来事は、ふだんの授業のような「教える／教えられる」という関係を超えて、大学における「知」のあり方、さらには自分たち自身の「生」を問い直すことを迫っています。今回のティーチインでは、この事態をどのようにとらえ、これからのように生きていくのかを共に考え、共に討論していきたいと思えます。

Teach-in at WAKO

第一回 5月19日(木) 14:40~17:30
発題者 山口 幸夫(原子力資料情報室共同代表)
ロバート・リケット(和光大学教員)

第二回 5月26日(木) 16:20~19:00
発題者 最首 悟(和光大学名誉教授)
向井 宏一郎(和光大学教員)

第三回 6月2日(木) 14:40~17:30
発題者 鎌田 慧(ルポライター)
竹信 三恵子(和光大学教員)

会場：
和光大学 E棟 1階 コンベンションホール
(第二回のみ和光大学 J棟 4階 401教室)

入場無料・事前予約不要
どなたでも参加できます



主催：緊急ティーチイン@和光大学実行委員会

共催：和光大学総合文化研究所

緊急ティーチン@和光大学

『震災・脱原発を考える』

第一回 2011年5月19日(木) 14:20 開場
[第一部:発題] 14:40~16:00 [第二部:討論] 16:10~17:30

発題者: **山口幸夫** (原子力資料情報室共同代表)

ロバート・リケット (和光大学教員)

脱原発社会——原発事故から見える社会のかたち

原発事故から見える社会の形と、その形を作りかえていく人々の想像力、そして実践について議論する。開発・公害・汚染・地域社会の解体といった近代社会、とりわけ高度成長以後の日本社会が抱えてきた問題をふりかえりながら、これらの問題が原発を抱え込んだ現代社会においてどのように極限化しているのかを話し合っていきたい。

第二回 2011年5月26日(木) 16:00 開場
[第一部:発題] 16:20~17:45 [第二部:討論] 18:05~19:00

発題者: **最首悟** (和光大学名誉教授)

向井宏一郎 (和光大学教員)

学問と未来——震災から見える学問と生のかたち

学問にとって想定外の未来とは何を意味するのだろうか、あるいは想定内の未来とはなんだろうか。震災と原発事故に遭遇する中で私たちが経験している生のかたちを考えながら、「学問と未来」について議論したい。

第三回 2011年6月2日(木) 14:20 開場
[第一部:発題] 14:40~16:00 [第二部:討論] 16:10~17:30

発題者: **鎌田慧** (ルポライター)

竹信三恵子 (和光大学教員)

職と労働——震災後を生きのびる労働のかたち

原発を支える下請労働の現実から、震災後の首切りまで、この社会の矛盾をしわ寄せされる形で切り捨てられていく労働・生・地域について2人のジャーナリストからお話をいただくとともに、震災以後のメディアのあり方についても議論したい。

(いずれも敬称略)

会場: 和光大学 E 棟 1 階 コンベンションホール (第2回のみ J 棟 4 階 401 教室)

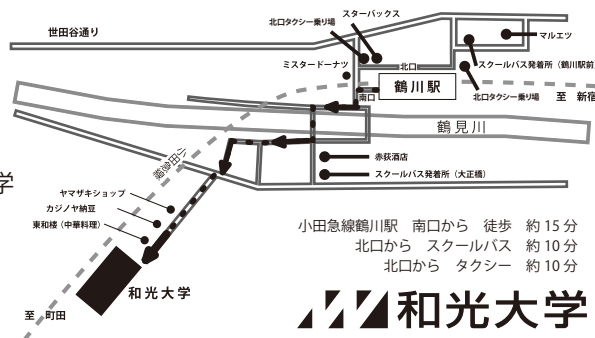
入場無料・事前予約不要 どなたでも参加できます。(定員 200 名)

主催: 緊急ティーチン@和光大学実行委員会

岩本陽児 内田正夫 加藤巖 杉本昌昭 竹信三恵子 堂前雅史 野中浩一 道場親信
向井宏一郎 米田幸弘 ロバート・リケット

共催: 和光大学総合文化研究所

アクセス:
小田急線鶴川駅から徒歩 15 分
クルマでのご来場はご遠慮ください
連絡先:
〒195-8585 東京都町田市金井町 2160 和光大学
実行委員長 道場親信 (和光大学教員)
E-Mail: wako_teach-in@hotmail.co.jp
TEL: 044-989-7497 (和光大学企画室)



「ティーチン」
とは

1960年代の大学で始まった教員や学生が時事問題などを話し合う集会のことです。